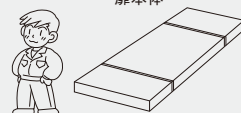
仕様説明

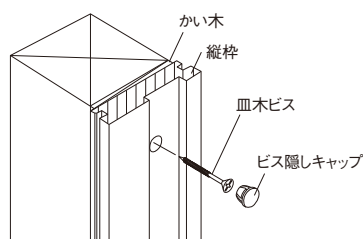
⚠下地が木軸でなく軽天仕様の場合は、必ず軽天ビスをご使用願います。

片開きドア・親子ドア・片引き戸・引き違い戸

梱包について

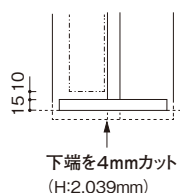
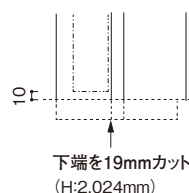
扉本体と枠と金具は別梱包ですので、枠だけの先行施工がしやすく、枠施工中の扉養生の配慮が軽減します。
（片開きドアはハンドルセットも別梱包となります。）
（引き戸は敷居も別梱包となります。）

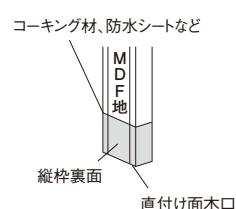
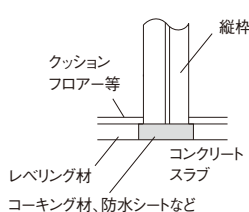
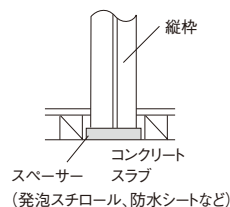
ハンドルセット	敷居	枠	扉
金具（開きドアのみ）	敷居（引き戸のみ）	枠材	扉本体

縦枠の取り付け

皿木ビスφ4×50で固定します。
（引き戸のみビス隠しキャップをはめ込みます。）

開きドア沓摺の取り付け

室内換気として10mmクリアランスを設ける場合

BF用平沓摺使用
15 10
下端を4mmカット
（H:2,039mm）

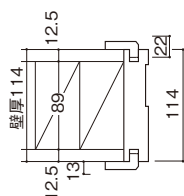
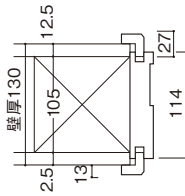
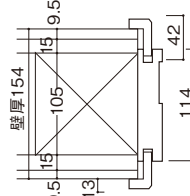
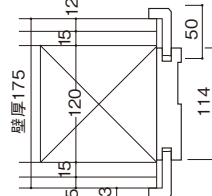
沓摺使用しない
10
下端を19mmカット
（H:2,024mm）

開口枠施工上のご注意

●コンクリート面（スラブ）からの吸水を避けるため、枠の木口をコンクリート面に直付けしないでください。木口の吸水防止スペーサーとしては、発泡スチロールや防水シートなどを使用してください。
●やむを得ず直付け施工する場合、及び、枠施工後レベリング材の打設を行う場合は、枠の木口及び裏面の基材（MDF）露出部分をコーキングや防水テープなどで必ず保護してください。
●コンクリート未乾燥状態での施工及び、湿度過度での施工は避けてください。

お願い

●保管は屋内の水気や湿気のない場所に平積みにしてください。
●製品の角や端を強打することのないようにご注意ください。
●化粧面を強くこすらないようにしてください。
●電動ノコで切断する際は、切断部に毛引き（毛引きカンナ等）を入れておくときれいに仕上がります。
●化粧シートのはがれ、傷、汚れ等の補修方法について、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

締め付けが強いインパクトドライバーは使用しないでください。

4サイズのケーシングにより114〜178mmの壁厚に対応しています。

114mmの壁厚に対応
柱89mm・内胴縁・
プラスターボード12.5mm
ケーシング22×35mm（2×4用）

122〜132mmの壁厚に対応
柱105mm・内胴縁・
プラスターボード12.5mm
ケーシング27×24mm

152〜162mmの壁厚に対応
柱105mm・外胴縁・
プラスターボード9.5mm
ケーシング42×24mm

168〜178mmの壁厚に対応
柱120mm・外胴縁・
プラスターボード12.5mm
ケーシング50×24mm

※壁厚寸法は標準的な納まり寸法です。当てはまらない場合はケーシングをカットすることにより対応が可能です。

片開きドア・親子ドア

仕様

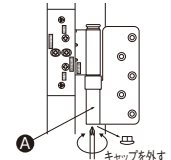
出荷形態	ドアユニット	加工済組立完成品	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
	ハンドルセット	レバーハンドル・座・ケース錠・丁番受け	
	ケーシング	セット梱包	
主材料 表面処理	ドア本体	芯　材	LVL・PB・MDF
		表面材	MDF・特殊化粧シート
		採光部	樹脂板
	縦枠・横枠	MDF・オレフィンシート	
	ケーシング	MDF・オレフィンシート	

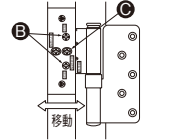
沓　摺（別売）	樹脂押出成型品・集成材

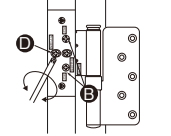
ドア丁番の調整方法

※調整は必ずドライバーで行ってください。（電動工具厳禁）
※上下調整以外の調整は、上側の丁番より調整を行ってください。

上下調整	（出荷時より上下±2.0mm）

①下に調整の場合は、下側の枠金具キャップを外します。
②プラスドライバーで調整用ビス🅐にて調整します。
③上に調整の場合は、上側の枠金具キャップを外して、プラスドライバーで左へ（時計と逆回り）2回転以上上してから下側の枠金具キャップを外して調整を行います。
④調整が終わったら上側の軸受けを下ろし隙間を隠します。
⑤外したキャップを取り付けます。

前後調整	（出荷時より前後±1.5mm）

①固定用ビス🅑を緩め、調整用ビス🅒にて位置を調整します。
②固定用ビス🅑を締めます。

左右調整	（出荷時より左右±2.0mm）

①固定用ビス🅑を緩め、調整用ビス🅓にて位置を調整します。
②固定用ビス🅑を締めます。

片引き戸・引き違い戸

仕様

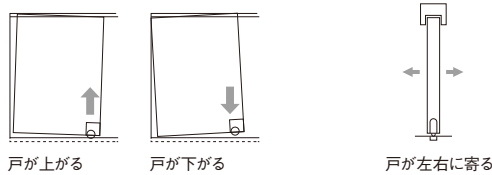
出荷形態	ドアユニット	加工済組立完成品	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
	ケーシング	セット梱包	
	敷　居	セット梱包	
主材料 表面処理	ドア本体	芯　材	LVL・PB・MDF
		表面材	MDF・特殊化粧シート
		採光部	樹脂板
	鴨居・縦枠	MDF・オレフィンシート	
	中方立	LVL・MDF・オレフィンシート	
	敷居 樹脂敷居	樹脂押出成形品	
	敷居 集成材敷居	木製ムク集成塗装品	
	敷居 直付レール	アルミ押出成形品・アルマイト	
	敷居 敷居Vレール	アルミ押出成形品・アルマイト	
	ケーシング	MDF・オレフィンシート	

戸車の調整方法

戸の位置が上がり過ぎたり、下がり過ぎたり、傾いたりしている場合、戸の木口面から、戸車調整用ビスをドライバーで右、あるいは左に所定の位置まで回してください。

戸が上がる

戸が下がる

戸が左右に寄る

上下調整（戸車のみ）	（±3.0mm）	左右調整	（±2.0mm）

ドライバーで上の調整用ビスを調整します。

戸車調整

ドライバーで下の調整用ビスを調整します。

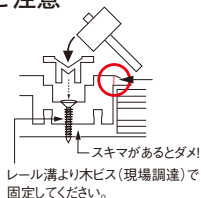
戸車調整

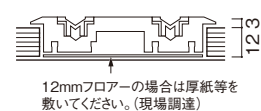
引き戸敷居施工についてのご注意

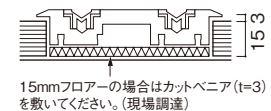
引き戸用樹脂製敷居（バリアフリー用）

ご注意

調整用の厚紙、カットベニヤ等を敷かずに、レールの叩き込みを行うと、○印の部分が破損するおそれがあります。

レール溝より木ビス（現場調達）で固定してください。

樹脂製敷居施工上のお願い

①12mm厚フロアーとの納まり

12mmフロアーの場合は厚紙等を敷いてください。（現場調達）

②15mm厚フロアーとの納まり

15mmフロアーの場合はカットベニア（t=3）を敷いてください。（現場調達）

仕様説明

⚠下地が木軸でなく軽天仕様の場合は、必ず軽天ビスをご使用願います。

リニアオートマチックドア

仕様

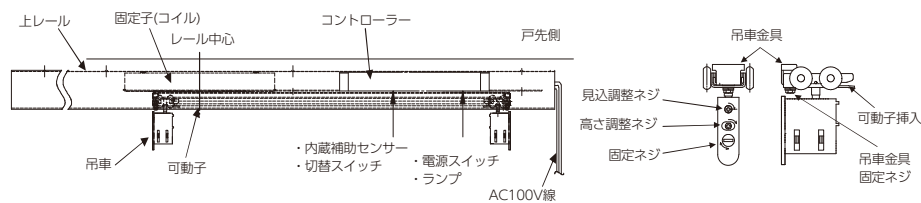
出荷形態	ドアユニット	加工済組立完成品・ハンドル	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
主材料 表面処理	ドア本体	芯　材	LVL・PB・MDF
		表面材	MDF・オレフィンシート
		採光部	樹脂板
	縦枠・横枠	MDF・オレフィンシート	

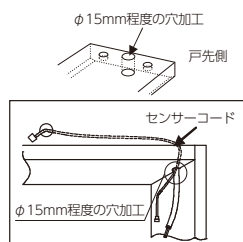
施工前の確認

○この商品は「インセット「上吊片引き戸」を用途とする商品です。他の用途として使用したり、施工説明書と異なった施工をした場合のクレームは当社では責任を負い兼ねます。
○施工時に電動ドライバーを使用する場合はネジ頭の破損を防ぐためトルクの調整をしてください。
○部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け十分な養生をしてください。
○開口部の寸法を計り、枠が正確に施工されているかご用意のサイズが適切かご確認願います。

⚠**警告**　電気工事は、必ず有資格者が行ってください。

※詳しいリニアエンジンの組み付け方法及び取扱い方法は、リニアエンジン本体に同梱されている別紙の組付説明書と取扱説明書に記載されてますので必ずご参照下さい。

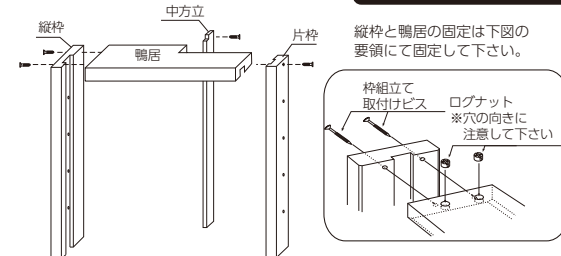
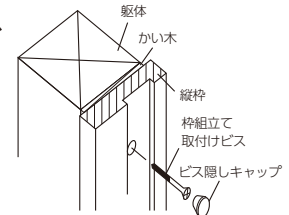
エンジン本体各部の名称

1 配線を通す為、鴨居への穴加工

鴨居戸先側へ、配線を通す為、任意の箇所へφ15mm程度の穴加工を施してください。

2 -1 下図に従い枠組ビスで固定し、フレームを作ります。

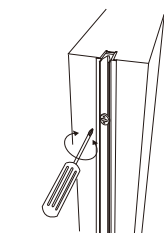
⚠控え壁は、必ず12mm以上の下地材を用い、強度をもたせて下さい。

※中方立取付の際は必ず通穴をあけてから同梱の枠組立て取付けビスで固定してください。

⚠鴨居を固定するまぐさ部には強度が得られる下地材を必ず入れてください

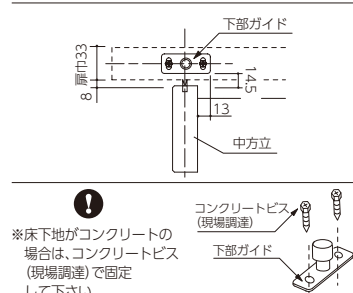
縦枠と鴨居の固定は下図の要領にて固定して下さい。

2 -2 枠組ビスで躯体に固定し、ビス隠しキャップをはめ込みます。

3 中方立調整金具のモヘア調整

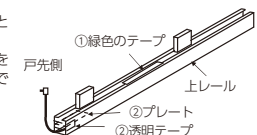
中方立調整金具のビスを⊕ドライバーで回し扉に当らない程度に調整して下さい。

扉に当ると摩擦音の原因になります。

右に回すとモヘアが手前に出てきます。
左に回すと奥に引っ込みます。

4 上吊下部調整ガイドの取り付け

上吊下部調整ガイドを付属のビスで下図の位置に取り付けてください。
垂直に戸が吊り込めるよう取り付け位置に注意してください。

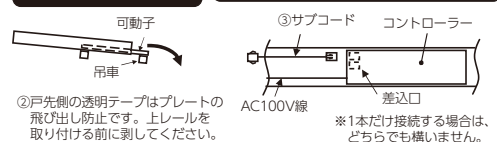
※床下地がコンクリートの場合は、コンクリートビス(現場調達)で固定して下さい。

5 -1 上レールの取り付け前の注意点

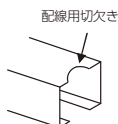
①緑色のテープは、上レールと可動子を仮固定しているテープですので、上レールを枠へ固定するまで剥さないでください。

⚠固定する前に緑色のテープを剥すと可動子が落下し、可動子や吊車が損傷したり、人が怪我、床や壁に損害を及ぼす恐れがあります。

②戸先側の透明テープはプレートの飛び出し防止です。上レールを取り付ける前に剥してください。

③オプションで、スポットセンサー・タッチスイッチを取付ける場合は、レールの取付け前にサブコードをコントローラーに接続してください。

⚠詳細は各オプション部品に同梱の説明書をご覧ください。

※1本だけ接続する場合は、どちらでも構いません。

5 -2 配線の処理

上レールの配線用切欠きに配線を通し、配線を噛み込まないよう枠へセットしてください。

電源の接続とセンサー類の有無により下記表のように配線を通し、[6 上レールの取付け] の後、配線の処理をしてください。

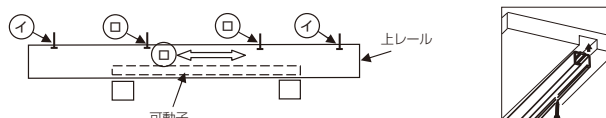
⚠ 警告

電気工事は、必ず有資格者が行ってください。

❗ 電源の接続とオプションの有無により別紙のMM型リニアモーター式自動ドアの組付説明書を参照の上、配線を通し、配線の処理をしてください。

6 上レールの取付け

イ・ロ・ハの手順で、4ヶ所締め付けてください。

イ：両端を先に固定→ロ：テープを剥がし可動子移動→ハ：中央部を固定
（レールは同梱しているネジで固定しますが、取付け先の部材により、最適なネジに変更してください。又ネジは必ず40mm以上の長さのものを使用してください。）

7 戸の吊込み

1、戸先側の吊車を、電源スイッチ付近で止めます。図1参照

2、戸先側吊車の下側の吊車固定ネジを、ドライバー又はスパナで2回転緩めてください。図2参照（緩め過ぎると、吊車金具が外れます。）

3、吊車をスライドさせて、可動子から吊車を抜き取ります。　図2参照

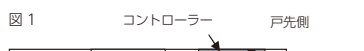
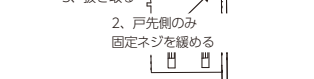
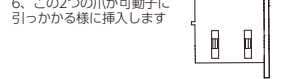
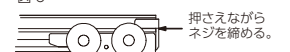
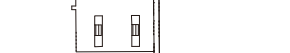
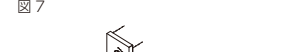
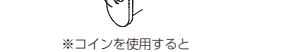
4、上吊下部調整ガイドに（戸に加工した）ガイド溝を差し込みます。　※図3参照

5、戸尻側のアの吊車から戸に取付けます。　図4参照

6、戸先側のイの吊車を組付けます。　図5参照

入り込みが悪い場合は、ドアを少し持ち上げ、揺すりながら入れるか、可動子先端を指で下に下げてください。

7、2、で緩めた吊車金具固定ネジを、スパナを使用して締付けてください。　図6参照
この時、吊車金具を下図に示す方向に押さえながら締付けます。

8、吊車のロックが［固定］側になっていることを、確認してください。　図7参照

※コインを使用すると回し易い。

仕様説明

クローザー・ブレーキ施工説明

標準仕様 ブレーキの取付け位置

※イラスト説明文の(　)は取付箇所です。
※イラスト寸法図の(　)は関止め使用時の寸法です。

■ 引き戸機能

戸先側
ブレーキ
戸尻側
なし

クローザー仕様 ストライカの取付け位置

●片引きの場合

●引き違いの場合

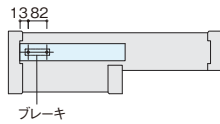
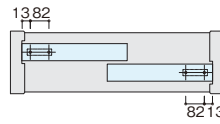
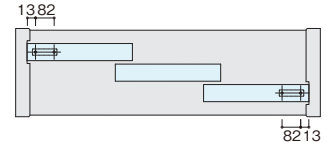
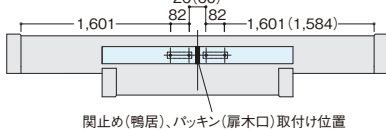
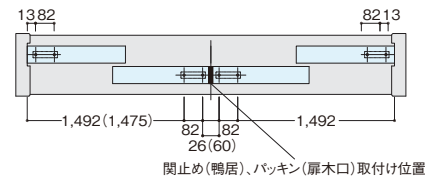
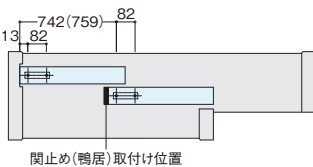
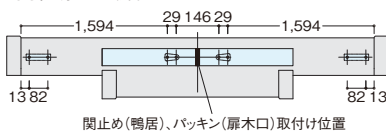
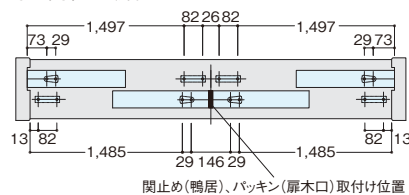
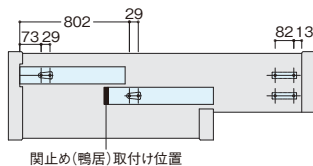
●3本引きの場合

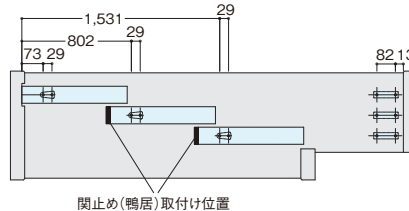
・3本引きのセンター扉にクローザーは付きません。

●引き分けの場合

●4本引きの場合

■ 引き戸機能

戸先側
クローザー
戸尻側
ブレーキ

●2本引き込みの場合

●3本引き込みの場合

※イラスト説明文の(　)は取付箇所です。

ご注意

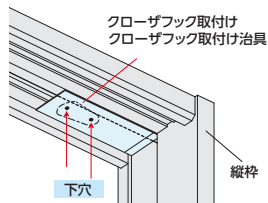
●閉め付けが強い電動ドライバーは使用しないで下さい。破損の原因となります。
●脱輪の原因となりますので、吊り込みの前に、敷居レールにゴミがないかご確認願います。
●枠を施工する際には、水平垂直をご確認下さい。施工条件によっては、扉が閉まりにくくなります。
●扉はクローザー機能により自然に閉まりますので、無理な力で閉めないようにして下さい。
●クローザー、ブレーキは指詰め防止機能ではありませんので、ご注意願います。

クローザー・ブレーキ施工説明

■ クローザーストライカ、ブレーキの取付けには、製品に同梱の取付け治具をご使用下さい。

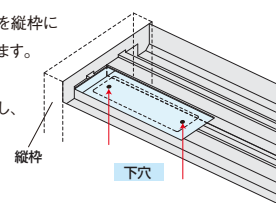
ストライカの取付け【ストライカ取付け治具を使用】

1.治具に表示のある『縦枠』側を縦枠に合わせ、下穴(2箇所)を開けます。

2.治具を外してから下穴を確認し、ストライカを取付けます。

ブレーキの取付け【ブレーキ取付け治具を使用】

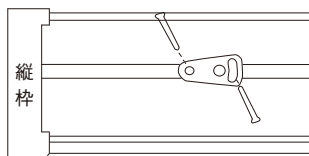
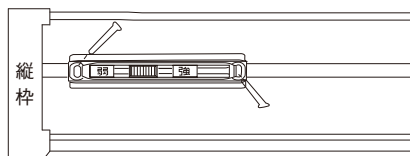
1.治具に表示のある『縦枠』側を縦枠に合わせ、下穴(2箇所)を開けます。

2.治具を外してから下穴を確認し、ブレーキを取付けます。

縦枠
下穴

ご注意	4本引き戸・引き分け戸・2本引き込み戸・3本引き込み戸への取付けは、扉が縦枠に接していない箇所への取付けが必要です。戸先を基準に合わせて、下穴加工を施してください。

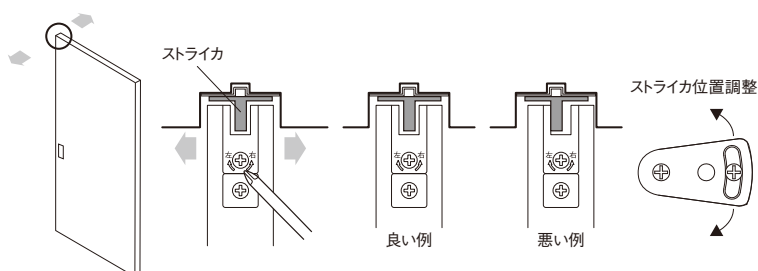
クローザーストライカ、ブレーキ取付け方向

■ 取付け方向を逆向きに取付けると、機能が正常に作動しませんので、ご注意願います。

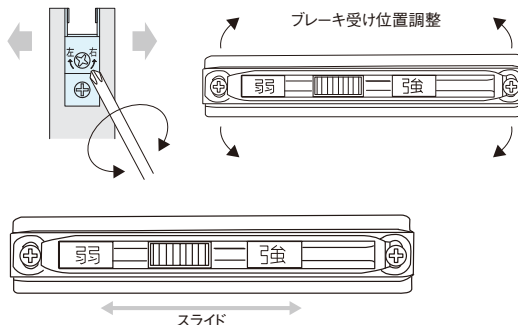
●ストライカの先の細い方を縦の外の方向に向けて下さい。

●ブレーキ本体にある、『弱』の方を枠の外の方向に向けて取付けて下さい。

クローザー、ブレーキの調整方法

クローザーの調整方法と作動確認

1.ストライカがクローザーの中央になるように調整してください。
(調整範囲:基準位置より左右2mm)
左右調整ビスを『右』表示方向に回す
……引き戸本体は右へ動きます。
左右調整ビスを『左』表示方向に回す
……引き戸本体は左へ動きます。

2.調整完了後は、一度引き戸を静かに締めてクローザー機構が正常に機能するかご確認願います。

ブレーキの調整方法

1.ブレーキ受けが扉金具の中央になるように調整してください。
(調整範囲:基準位置より左右2mm)
左右調整ビスを『右』表示方向に回す
……引き戸本体は右へ動きます。
左右調整ビスを『左』表示方向に回す
……引き戸本体は左へ動きます。

2.ブレーキの強さは強弱レバーを指で調節するだけで、簡単に調整可能です。

仕様説明

⚠ 下地が木軸でなく軽天仕様の場合は、必ず軽天ビスをご使用願います。

クローゼット

仕様　[ピボットタイプ(四方枠)]

出荷形態	扉ユニット	加工済組立完成品・ハンドル	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
		ピボットタイプ	上部ロックピン・上部スライドピン ガイドピボット・下部ピボット 滑り台付きピボット受け・上下レール
主材料 表面処理	扉本体	芯　材	MDF+LVL・PB
		表面材	特殊化粧シート
	縦枠・横枠	MDF・オレフィンシート	
	上・下レール	アルミ押出成形品・アルマイト	

■施工手順

1　枠組み立て

下図に従い縦枠と横枠を固定し、フレームをつくります。

縦枠と横枠の固定は下図の要領にて固定して下さい。

2　枠の取り付け

固定用ビスで固定し、ビス隠しキャップをはめ込みます。

フレームを柱間に入れます。※さげふり・水準器を用いて、**水平垂直**を出し、ねじれ等がないことを確認しながら、縦枠の取り付け用穴へ固定用ビスで固定してください。

3　枠用部品の取り付け

上部スライドピンと上部ロックピンの取り付け

上部スライドピンと上部ロックピンを上レールの中へ挿入して固定用ビスを締めて固定してください。(レール取り付け後は入りません)

注意:
上部ロックピンの向きを間違えると走行不良や故障の原因となります。

4

5　ピボット受けの取り付け

下部受けを下レールの中へ挿入して固定用ビスを締めて固定してください。(レール取り付け後は入りません)

注意:ピボット受けの向きを確認してください。

6　レールの取り付け

レールを枠へレール固定用ビスにて取り付けます。

7　上部ロックピンとピボット受け位置

上部ロックピンとピボット受けをプラスドライバーで操作して位置を微調整して下さい。

治具(同梱)をあてて、ロックピン及びピボット受けを固定して下さい。

8　扉用部品の取り付け

下部ピボットとガイドピボットの取り付け

下部ピボットとガイドピボットを押し込み、打込みパイプの上から打込みます。

打込みパイプ
下部ピボット
打込みパイプ
ガイドピボット

注意：下部ピボットとガイドピボットを取り付ける時はカナヅチ等で直接打込むと破損の原因になりますので、必ず専用の打込みパイプを使用して下さい。

9
扉の吊り込み
ガイドピボット・下部ピボットを下レールに落とし込む
ガイドピボット・下部ピボットを下レールに落とし込んでください。
落とし込む
ガイドピボット
下レール
注意：ガイドピボットが下レールに確実に入っていることを確認しください。
10
下部ピボットをピボット受けに落とし込む
下レールに落とし込んだ下部ピボットを端に移動してピボット
固定穴に落とし込みます（。金具が滑り台状になっていますので、
固定穴への落とし込みが容易です）
カチ！
下部ピボット 固定穴
注意：下部ピボットがピボット受けに確実に入っていることを確認してください。
注意
扉が確実に取り付いたことを必ず確認してください。
確実に取り付いていないと、扉が落下・転倒し、ケガをする原因となります。
上部金具のピンをはさみ込みながら扉を持ち上げる
上レール内で上部金具のピンにブラケットを合わせ、
はさみ込みながら、扉を持ち上げます。
・STEP2
・STEP3
・STEP1
STEP2
はさむ
カチ！ カチ！
持ち上げる
扉の上下調節
下部ピボットをスパナで操作して
上下調整してください。
下部ピボット
下レール
上がる
ピボット受け
下がる
スパナ
※ピボット受けのナットは必ずしっかりと締めてください。扉が倒れる恐れがあります。

扉のはずしかた STEP1 STEP2 STEP3 の順番で行います
ロックレバーを下に引き下げ、扉を居室側になまめ下に押し、
吊車本体から引き離してください。
STEP1
扉を閉じる。
STEP2
①のロックレバーを下げ、
扉を室内側方向になまめ下
に扉を引き抜く。
扉を抜く
上げる
①ロックレバー
STEP3
扉を吊車本体から引き離す。
ななめ下に押す

仕様説明

⚠下地が木軸でなく軽天仕様の場合は、必ず軽天ビスをご使用願います。

クローゼット

仕様　［ピボットタイプ（三方枠直付けレール仕様）］

出荷形態	扉ユニット	加工済組立完成品・ハンドル	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
		ピボットタイプ	上部ロックピン・上部スライドピン 下ローラー・下部ピボット ピボット受け・上レール・直付けレール
主材料 表面処理	扉本体	芯　材	MDF+LVL・PB
		表面材	特殊化粧シート
	縦枠・横枠	MDF・オレフィンシート	
	上レール・直付けレール	アルミ押出成形品・アルマイト（シルバー色）	

■施工手順

1 枠組み立て

下図に従い縦枠と横枠を固定し、フレームをつくります。

縦枠と横枠の固定は下図の要領にて固定して下さい。

2 枠の取り付け

固定用ビスで固定し、ビス隠しキャップをはめ込みます。

フレームを柱間に入れます。※さげふり・水準器を用いて、**水平垂直**を出し、ねじれ等がないことを確認しながら、縦枠の取り付け用穴へ固定用ビスで固定してください。

3 枠用部品の取り付け

上部スライドピンと上部ロックピンの取り付け
上部スライドピンと上部ロックピンを上レールの中へ挿入して固定用ビスを締めて固定してください。
（レール取り付け後は入りません）

注意：
上部ロックピンの向きを間違えると走行不良や故障の原因となります。

4

5 上レールの取り付け

レールを枠へレール固定用ビスにて取り付けます。

6 下レールの取付け

縦枠手前から 31.6 mmの場所に置いて付属のビスにて固定してください。

（下記図参照）

ピボット受けを縦枠からピボット受け端まで 26mm の位置に固定。

1 扉用部品の取り付け

ガイドピボットの取り付け

ガイドピボットを押し込み、打込みスペーサーの上から打込みます。

注意：
下部ピボットとガイドピボットを取り付ける時はカナヅチ等で直接打込むと破損の原因になりますので、必ず専用の打込みパイプを使用して下さい。

扉の吊り込み 〈扉は上からはめ込んでください〉

STEP1 STEP2 STEP3 の順番に行ってください。

注意 扉が確実に取り付いたことを必ず確認してください。
確実に取り付いていないと、扉が落下・転倒し、ケガをする原因となります。

1 扉の調整

上部ロックピンとピボット受け位置の微調整

上部ロックピンとピボット受けをプラスドライバーで操作して位置を微調整して下さい。

扉の上下調節

下部ピボットをスパナで操作して上下調整してください。

※ピボット受けのナットは必ずしっかりと締めてください。扉が倒れる恐れがあります。

扉のはずしかた

STEP1 STEP2 STEP3 の順番で行います

ロックレバーを下に引き下げ、扉を居室側にななめ下に押し、吊車本体から引き離してください。

仕様説明

⚠ 下地が木軸でなく軽天仕様の場合は、必ず軽天ビスをご使用願います。

クローゼット

仕様 ［フリータイプ（四方枠）（三方枠直付けレール仕様）］

出荷形態	扉ユニット	加工済組立完成品・ハンドル	
	枠ユニット	加工済ノックダウン	
		フリータイプ	上部ローラー・上ストッパー ガイドピボット・上下レール （下ローラー）（仮固定ストッパー）
主材料 表面処理	扉本体	芯　材	MDF＋LVL・PB
		表面材	特殊化粧シート
	縦枠・横枠	MDF・オレフィンシート	
	上・下レール	アルミ押出成形品・アルマイト	

※直付けレール仕様の場合、（　）が追加され、ガイドピボットはありません。

■施工手順

1 枠組み立て

下図に従い縦枠と横枠を固定し、フレームをつくります。

縦枠と横枠の固定は下図の要領にて固定して下さい。

2 枠の取り付け

固定用ビスで固定し、ビス隠しキャップをはめ込みます。

フレームを柱間に入れます。※さげふり・水準器を用いて、**水平垂直**を出し、ねじれ等がないことを確認しながら、縦枠の取り付け用穴へ固定用ビスで固定してください。

3 枠用部品の取り付け

吊車本体と上部ストッパーの取り付け

・吊車本体の凹凸が合うようにレールの中へ挿入してください。
（レール取り付け後は入りません）
・ストッパーを固定する位置を確認して挿入してください。

注意：
吊車本体の向きを間違えると走行不良が起きたり、吊り元固定ストッパーが取り付かなくなります。

4 レールの取り付け

・レールを枠へビス固定します。

※3方直付けレールの下レール取り付け方法は10をご覧下さい。

5 上部ストッパーの取り付け（後付けする場合）

・レール取り付け後、上部ストッパーを取り付ける場合固定ネジを緩めた後、指でビスを押さえながらレールより90°角度で挿入し回転させ取り付けます。

注意：
固定ネジを締め過ぎないでください。電気ドライバーを使用しないでください。

6 扉用部品の取り付け

ガイドピボットの取り付け

ガイドピボットを押し込み、打込みパイプの上から打込みます。

《注意》
ガイドピボットを取り付ける時はカナヅチ等で直接打込むと破損の原因になりますので、必ず専用の打込みパイプを使用して下さい。

※3方直付けレールの扉用部品の取り付け方法は11をご覧下さい。

7 扉の吊り込み

ガイドピボットを下レールに落とし込む

ガイドピボットを下レールに落とし込んでください。

《注意》ガイドピボットが下レールに確実に入っていることを確認してください。

※3方直付けレールの扉の釣り込み方法は12をご覧下さい。

8 吊車本体の凹凸を合わせる

上レール内にある吊車本体の凹凸に合わせてください。

9 吊車本体をはさみ込みながら扉を持ち上げる

上レール内で凹凸を合わせた吊車本体にブラケットを合わせ、はさみ込みながら、扉を持ち上げます。

扉のはずしかた STEP1 STEP2 STEP3 の順番で行います

ロックレバーを下に引き下げ、扉を居室側になめ下に押し、
吊車本体から引き離してください。

扉の調整

1 扉の上下調整

「外側」シール下部の上下調整ビスをプラスドライバーで回して上下調整してください。
(±2mmまで調整できます)時計周りに回すと扉が上がります。
反時計回りに回すと扉が下がります。

注意：
扉の上下調整の際は必ず扉を
持ち上げながら行なってください。

2 ストッパーの位置の微調整

扉が上下同時に固定されるように、ストッパーの位置を微調整してください。

治具(同梱)を縦枠に
当て、ストッパーを
固定して下さい。

注意:固定位置が上下でずれるとストッパーのキャッチ力が弱まります。

10 下レールの取付け

縦枠手前から 31.6 ㎜の場所に置いて付属のビスにて固定して下さい。

(下記図参照)

11 扉用部品の取り付け

下ローラーの取り付け

下ローラーを押し込み、打込みスペーサーの上から打込みます。

注意:
下ローラーを取り付ける時はカナヅチ等で直接打込むと破損の原因になりますので、必ず専用の打込みパイプを使用して下さい。

12 下ローラーの取り付け

下部ﾛｰﾗｰを仮固定ｽﾄｯﾊﾟｰに落とし込んでください。

仕様説明

収納部材施工説明

施工前のご注意

●この商品は内装専用です。屋内でも直接水のかかる場所での施工は避けてください。
●保管は水気、湿気の少ない水平な場所に平積みしてください。

施工上のご注意

●枕棚棚板、中段棚板の取り付け位置には補強が必要です。あらかじめ位置決めし、胴縁及び間柱等で補強を確実に行なってください。
●間口2m以上の棚板は吊り束や支え柱等で補強を確実に行なってください。
●施工やその他作業の際、棚板へぶらさがったり、乗ったりしないでください。棚板が破壊し落下する恐れがあります。

枕棚棚板、中段棚板の施工方法

1 棚板の受桟取り付け位置にはあらかじめ補強桟を取り付けてください。 …………図-1

注意 補強桟がないと取り付けできません。

2 壁を仕上げてください。

3 棚板の受桟取り付け位置に水準線を引いてください。 …………図-2

4 受桟を背壁にビス（L=50mm以上）止めしてください。 …………図-3
●ピッチ450mm以下の間隔で確実に固定してください。

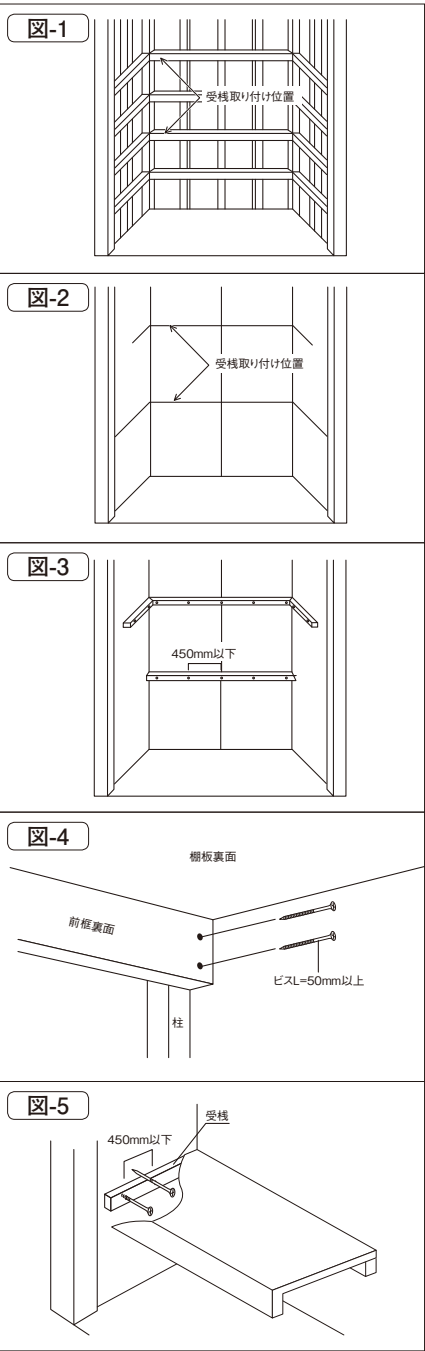
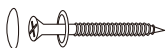
間　口	ビス使用本数
900タイプ	3本
1350タイプ	4本
1800（2000）タイプ	5本
3000タイプ	7本

●セット品は同梱の化粧ビスを使用してください。

5 真壁仕上げの場合（柱がある場合）
a.中段棚板、枕棚棚板を取り付け寸法に合わせてカットしてください。
〈カット目安寸法〉
●中段棚板…押入内寸法（間口、奥行）よりマイナス3mm
●枕棚棚板…押入内寸法（間口）よりマイナス3mm

b.前框裏面より下穴をあけビス（L=50mm以上）にて、柱の中心に向かって片側2ヶ所づつ確実に固定してください。 …………図-4

注意 前框を確実に固定しないと強度不足で棚板が破壊する恐れがあります。

c.両側壁面に受桟をビス（L=50mm以上）止めしてください。 …………図-5
●450mm以下の間隔で受桟片側に3本確実に固定してください。
●セット品は同梱の化粧ビスを使用してください。

5 **大壁仕上げの場合（柱がない場合）**

a.中段棚板、枕棚棚板を取り付け寸法に合わせてカットしてください。

〈カット目安寸法〉

●中段棚板…押入内寸法（間口、奥行）よりマイナス3mm

●枕棚棚板…押入内寸法（間口）よりマイナス3mm

b.両側壁面に受桟をビス（L＝50mm以上）止めしてください。 …………図-6

●450mm以下の間隔で受桟片側に3本確実に固定してください。

●セット品は同梱の化粧ビスを使用してください。

c.受桟に棚板を乗せ、前框と受桟を固定します。 …………図-7

●30×30mm程度のL型金具を使用してください。

●セット品は同梱のL型金具を使用してください。

●必ず下穴をあけ、前框側に20mm、受桟側に35mmのビスを使用してください。

⚠注意 前框と受桟を確実に固定しないと強度不足で棚板が破壊する恐れがあります。

6 **棚板と受桟を釘またはビス（L＝25〜40mm）で固定します。** …図-8

●ピッチは300mm以下の間隔で確実に固定してください。

7 **雑巾摺を取り付けてください。** ………図-9

●隙間と釘跡を隠すように取り付けてください。

●隠し釘と接着剤を併用して、450mm以内で固定してください。

間口3000タイプの場合の施工ポイント

棚板の強度を維持するため、下記の補強を必ず行なってください。

中段棚板

●束や支え柱等を側壁から6尺以内に必ず取り付けてください。 …………図-10

●セット品は同梱の支え柱を必ず取り付けてください。

枕棚棚板

●吊り束や棚受金具等で確実に補強を行なってください。

● 棚受金具を使用する場合は、間口方向を3等分して、2ヶ所に受桟をL型金具で固定してください。さらに、L型の棚受金具を使用し、受桟の補強を行なってください。 …………図-11、12

●受桟をL型金具で固定する場合は必ず下穴をあけ、ビスの長さを確認した後に取り付けしてください。

●L型の棚受金具は安全荷重が30kg/個以上の物を使用してください。

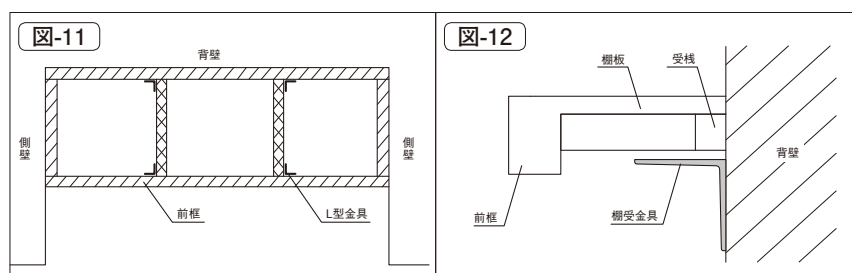
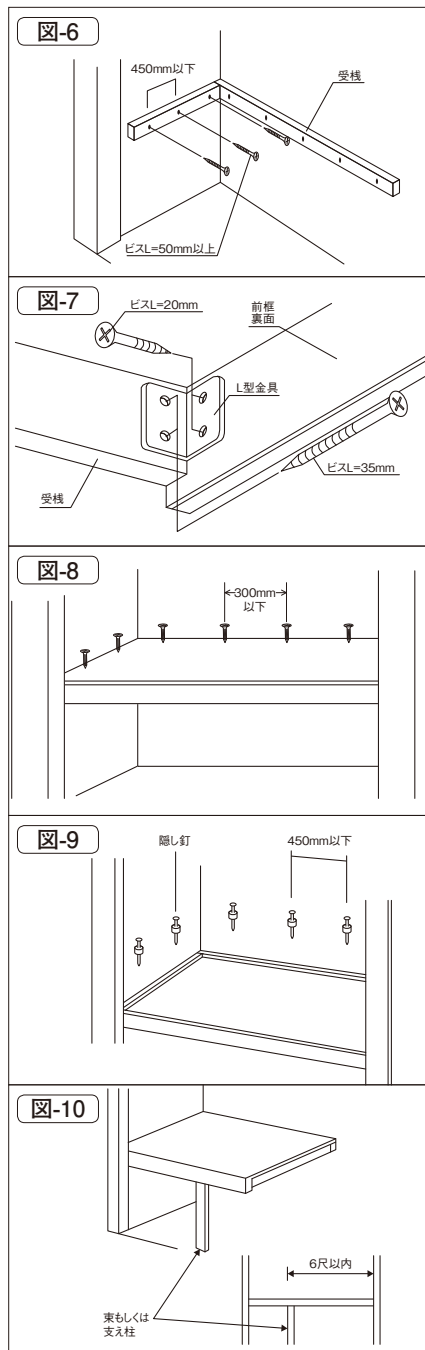



図-6

図-7

図-8

図-9

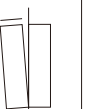
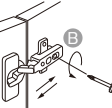
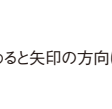
図-10

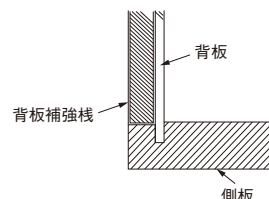
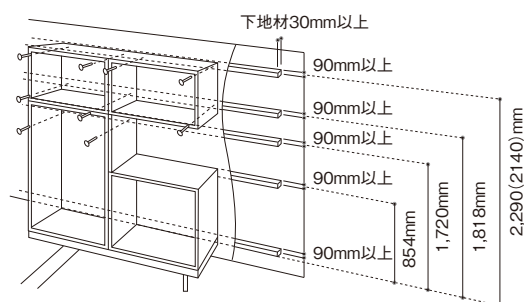
図-11 図-12

仕様説明

玄関収納

※各ユニットごとの梱包となり、ノックダウン（加工済）です。
※本体と扉は別梱包となります。
※扉の丁番は、箱本体と一緒に梱包されています。
※トール・ローボックスの台輪または受け桟は別注文となります。

強い揺れにも転倒しにくい、壁固定式の据え付け家具です。

各ユニットごとに背後の壁にビスで固定します。ユニット間も専用連結金具で連結しますので、
さらに強く固定されます。（ビスは現場調達）
※（　）内の寸法は天袋H:420タイプを使用した場合です。

本体の背板は差し込み施工です。

※補強桟は糊付（現場調達）
固定してください。

扉の建て付け調整方法

扉の建て付けはドライバーで丁番のビスを回して調整します。

扉の状態	調整方法
扉目地調整	Ⓐをゆるめると矢印の方向に動く
扉ウキ調整	Ⓑをゆるめると矢印の方向に動く
扉上下調整	Ⓒをゆるめると矢印の方向に動く

施工上のご注意

●この商品は単なる据え置きにすると転倒の恐れがありますので、必ず壁面に設置し、壁に固定してください。
●商品を固定する壁には、厚み30mm以上の補強材を柱に固定するなどの下地補強を必ずしてください。
●スライド丁番が適切に取り付けできたときは「カチッ」と音がしますので、必ずご確認ください。取り付けが不完全な場合、扉が脱落する恐れがあります。
●工事にあたっては各商品に添付している「施工説明書」を必ずよく読み、正しい施工をしてください。
●施工時に商品仕様を変えるような加工をされた場合は、責任を負いかねます。
●商品本来の目的以外、仕様環境以外では使用しないでください。

片開き・親子ドア
片引き戸・引き違い戸・アウトセット引き戸
間仕切り戸
アルミ建具
クローゼット・3連収納・収納部材・収納扉
玄関収納
フロアー・玄関部材・手摺
階段
造作部材・その他
UD建具
インテリア家具
木材＆プレカット・SPB
仕様説明
特注対応
寸法図

仕様説明

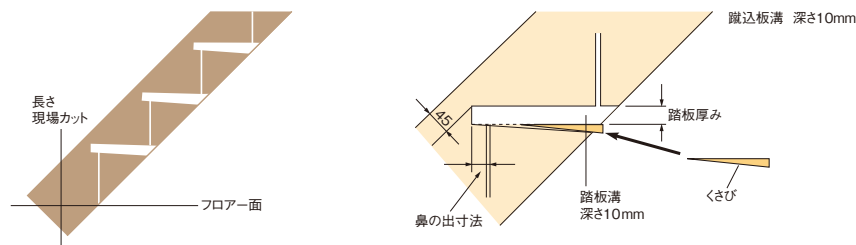
プレカット集成階段 ／ 加工内容及び施工上の注意

1 施工前のお願い

1. 納品時には必ず検品してください。
施工後は、手直しすることが難しい商品ですので万一、商品に不都合な点がありましたら、必ず施工前に、お買い求め店にご連絡ください。

2. 仮並べをしてください。
化粧単板や集成材を使用していますので、同じ品番でも色柄に差があります。
踏板、蹴込板は側板に取り付ける前に、あらかじめ薄い色から濃い色へ順に並べて色柄を調節し順番に並べて取り付けてください。

3. ビス下穴をあけてください。
ビスにて施工される場合は、必ず下穴をあけてから施工を行ってください。
材割れが発生したり、ビスが折れる恐れがあります。

2 側板の加工

3 廻り側板及び側板の接続

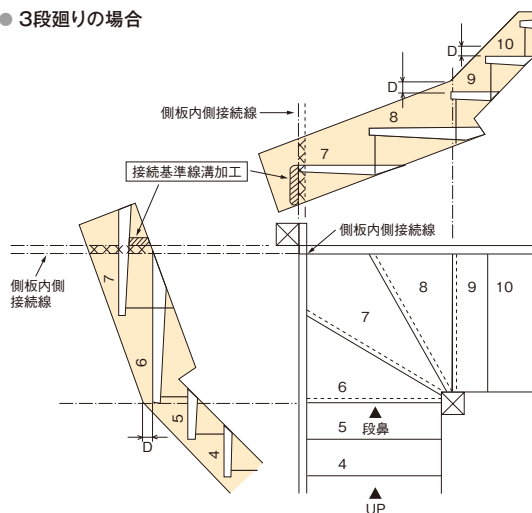
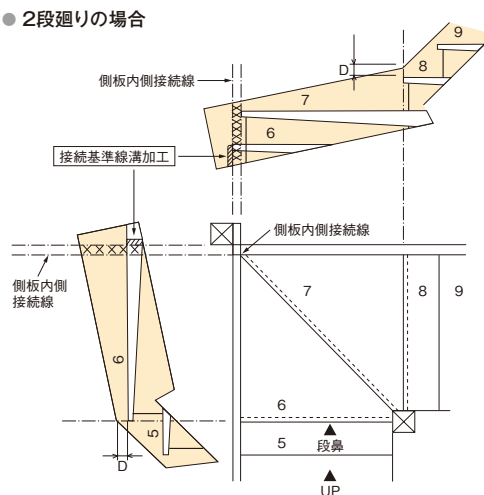
廻り側板には「接続基準溝」が加工してありますので接続の目安にしてください。基本パターンとして**「段鼻柱芯納め」**をお勧めしますが、応用パターンとして**「蹴込板柱芯納め」**と**「段鼻柱面納め」**も同一の加工で対応できます。

1. 直側板と廻り側板の接続 …… 直側板と廻り側板の接続は「段鼻上寸法」:Dを基準に合わせてください。

2. 廻り側板同士の接続 ………… **基本パターン**　段鼻柱芯納め

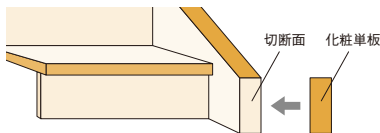
基本パターン

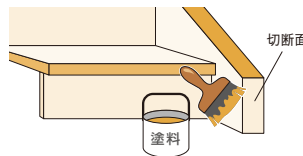
段鼻柱芯納め …… 廻り踏板の段鼻が柱の芯になるように取り付ける場合。(通常の廻り側板のプレカット加工は、下記の加工となります。

● 3段廻りの場合

● 2段廻りの場合

プレカット集成階段 ／ 加工内容及び施工上の注意

4 側板木口の処理

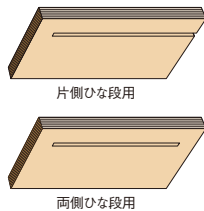
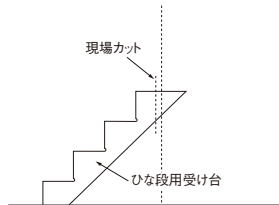
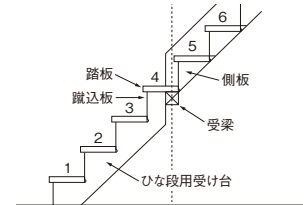
1. 化粧貼り商品

側板の梱包の中にある化粧単板を木口面に合わせてカットし、市販の木工用接着剤で貼り合わせてください。

2. 集成材商品

同系色の着色塗料を木口面に塗ってください。

補修塗料

品 名	塗 料
入 数	集成材用
品 番	G-TORYO
希望小売価格	¥2,900

5 ひな段加工

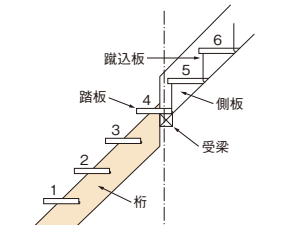
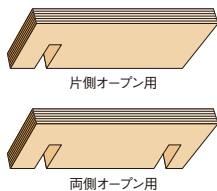
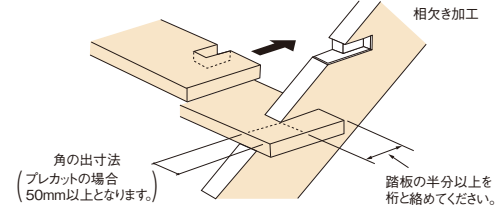
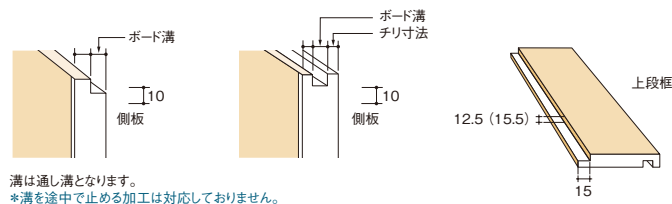
● ひな段用踏板の蹴込板溝加工

ひな段用受け台（下地材）

ひな段用受け台：施工例（ひな段用受け台ー側板）

6 桁加工

● オープン用踏板の相欠き加工

● オープン用

7 オプション加工

● ボックス用

溝は通し溝となります。
＊溝を途中で止める加工は対応しておりません。

8 プレカット加工賃

		ボックス型階段
オプション加工	側板ボード溝加工	¥9,500 /セット
	踏板の長さカット	¥2,000 /枚
	上段框フロア加工	¥2,900 /枚
	ヒナ段タイプ	¥1,200 /段

くさび

品 名	梱包入数	品 番	希望小売価格
くさび	30	□-KSB	¥2,000
廻り用くさび	3	□-MKSB	¥2,800

＊表示価格は税抜価格です。別途消費税がかかります。

リフォーム階段／加工内容及び施工上の注意

1 お願い

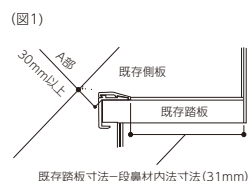
●本商品は側板部分で継ぎ手が出来ます。施主様へあらかじめ了承を得てご使用下さい。
●正しく施工していただくために必ず説明書を施工前にお読み下さい。間違った施工は思わぬ事故や故障の原因になり、
製品寿命を縮める恐れがあります。
●施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で事故及び破損等の問題が生じた場合は、
訴訟を致しかねますのでご注意下さい。
●施工前には必ず部材表及び部材をご確認下さい。
●保管は室内の水気や湿気の少ない場所や直射日光の当たらない場所で平置きして下さい。
間違った保管は反りやねじれなどの原因になります。また、開梱後は速やかに施工して下さい。

2 施工前のご注意

**●本商品は既存階段をリフォームする商品です。階段の形状・仕様によっては使用できない場合もありますので、
下記の仕様確認表でご確認下さい。**
●施工前には必ず既存階段の状態を確認していただき、不具合（強度不足、床鳴り等）がある場合は必ず補修下さい。
●既存階段の側板寸法（図１A部分：側板上面から段鼻先端までの最短距離）が30mm以上あるか確認して下さい。
●施工に使用する接着材は指定接着剤または同等品をご使用下さい。

＊化粧面に接着剤が付着した場合は乾いた布で速やかに拭き取って下さい。薬品、溶剤等は仕様しないで下さい。
＊本商品を施工する前には必ず表面の汚れ（水分や油分等）やワックスをはがしてください。また、表面をサンダーで平滑にして下さい。
＊必ず引渡し前には工事管理者の方が安全を確認していただき、不具合部分の補修を行って下さい。

	踏板の材質、形状	階段形状	踏板厚	踏板サイズ	側面の納まり	上階の床収まり
リフォーム可能条件	木質で平らなもの	箱型階段	30〜36mm まで	長さ900mm以内 奥行256mm以内 (踏板+鼻の出)	側板厚み(30mm以内)	(踏板厚30mmの場合) 対応フロアー厚み3.5mm〜15mmまで (踏板厚36mmの場合) 対応フロアー厚み3.5mm〜12mmまで
					巾木納め可能	上階床をリフォームしない場合は 既存の上段框のままで使用 (リフォームをしない仕様です)

(図1)

3 側板の加工

■側板加工

●基準線を出す
側板上面から段鼻先端の垂線（図１A部分）を２箇所取り基準線を出します。
●蹴上げ、踏面寸法を出す
差し金で各段毎に蹴上げ寸法と踏面寸法を測定して墨だしをします。
必ず踏面は各段ごとに採寸してください。

●段鼻、踏板厚の寸法を出す
段鼻と踏板厚を採寸して墨だしをします。

●カットする
手ノコまたはカッターで線に沿ってカットします。
カットは既存踏板との嵌合が多少ゆるめになるようカットしてください。
各部材厚みが2.5mmのため、隙間は1.5mm以内までは対応可能)
ただし、側板長さ部分の継ぎ手は隙間があかないように切断してください。

●側板取り付け
カットした側板を既存階段にあて、ぴったりまたは1.5mm以下の隙間があるか
を確認します。化粧側板の裏面（踏板上面部分）に指定両面テープを貼り付けます。

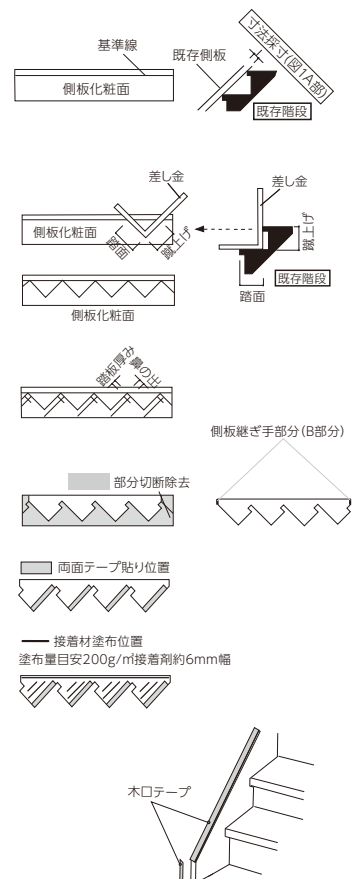
両面テープ部分を除く裏面に指定接着材または同等品を両面テープを避けて、
ヘラ等でならし塗布します。（接着剤塗布量目安２５０ｇ／接着材太さ６mm程度）

両面テープに接着材が付着しますと両面テープの性能を損なうことがあります。

両面テープ離型紙をはがし、化粧側板の継ぎ手（B部分）に隙間が開かないように
取り付けて、仮釘併用して仮固定します。

化粧側板取り付け後、既存側板よりはみ出した木口部分をカンナで削り
高さ調整します。その後にゴム系接着材で木口テープを接着してください。

上記施工を繰り返し、突きつけ施工にて側板を施工します。

片開き・親子ドア
片引き戸・引き違い戸・アウトセット引き戸
間仕切り戸
アルミ建具
クローゼット・3連収納・収納部材・収納扉
玄関収納
フロアー・玄関部材・手摺
階段
造作部材・その他
UD建具
インテリア家具
木材＆プレカット・SPB
仕様説明
特注対応
寸法図

4 化粧踏板

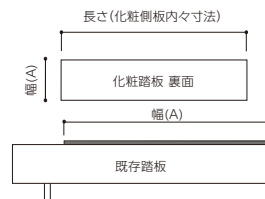
■化粧踏板の取り付け方

●各1段毎に踏板長さ(化粧側板内々)にぴったり合わせ採寸しカットします。

●幅(A)を既存踏板−(31mm:段鼻部材内寸)にカットします。(各段共通サイズ)
また、2段廻り・3段廻り及び踊り場は、フリー板を 段鼻部材内寸を考慮し採寸後カットします。

●各1段毎に踏板長さ(化粧側板内々)にぴったり合わせ採寸しカットします。

●幅(A)を既存踏板−(31mm:段鼻部材内寸)にカットします。(各段共通サイズ)
また、2段廻り・3段廻り及び踊り場は、フリー板を 段鼻部材内寸を考慮し採寸後カットします。

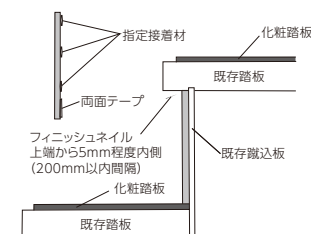
●裏面粘着層の離型紙をはがし、蹴込板に合わせて取り付け、押えてよくなじませてください。
(フィニッシュネイルは使用しないで下さい)

5 化粧蹴込板

■化粧蹴込板の取り付け方

●各1段毎に踏板長さ(化粧側板内々)にぴったり合わせ採寸しカットします。

●高さを既存蹴込板にあわせ採寸してカットします。接着前に化粧踏板と隙間がないことを
確認して下さい。

●裏面下端に指定両面テープを貼り付け、指定接着材及び同等品を6mm幅以上で
4本ほど塗布してください。塗布後、ヘラなどで両面テープを汚さないようにならしてください。

●両面テープの離型紙をはがし下端にあわせ接着してフィニッシュネイルを併用し固定してください。

6 段鼻部材

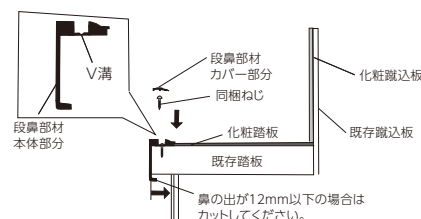
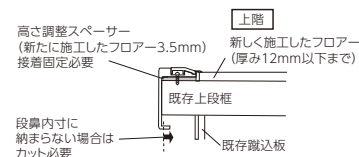
■段鼻部材の取り付け方

●段鼻部材(本体・カバー)の長さを各1段毎に踏板長さ(化粧側板内々)に
合わせてカットしてください。

●V溝部分に3.5mmの穴をキリで先穴をあけてください。
穴ピッチは両部端から50mm以下の位置で穴加工してください。
中間部分は200mm以内ピッチで均等に穴あけしてください。

●段鼻部材本体に張ってある両面テープの離型紙をはがして
段鼻先端に取り付けてなじむように押してください。
ねじ固定用にあけた穴に同梱ねじを使用して固定し、
浮きや隙間等がないことを確認してください。
また、踏板は1度取り付けてはがしたものは使用しないで下さい。

●段鼻部材カバーを本体溝に差込、浮きや隙間がない様に確認してください。

V溝
段鼻部材
本体部分
段鼻部材
カバー部分
同梱ねじ
化粧踏板
既存踏板
化粧蹴込板
既存蹴込板
鼻の出が12mm以下の場合は
カットしてください。

■上階の納まりについて

【施工Aの場合 上階をリフォームする場合】

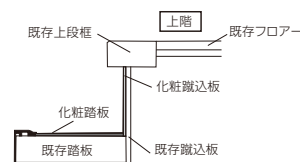
●上階を新フロアー(12mm以下)で上からリフォーム施工する場合は
高さ調整スペーサー(現場調達にて)で右図のように高さ調整して施工してください。

【施工Bの場合 上階をリフォームしない場合】

●この商品は上下階ともフロアーを増し張りする施工方法が基本となります。
上階をリフォームしない場合は、既存の上段框をそのままご利用下さい。

上階
高さ調整スペーサー
(新たに施工したフロアー3.5mm)
接着固定必要
新しく施工したフロアー
(厚み12mm以下まで)
既存上段框
段鼻内寸に
納まらない場合は
カット必要
既存蹴込板

【施工 A:上階床をリフォームする場合】

上階
既存上段框
既存フロアー
化粧蹴込板
化粧踏板
既存踏板
既存蹴込板

【施工 B:上階床をリフォームしない場合】

7 点検補修

■点検と補修について

●突きつけ部分や化粧面などを必要に応じて別売または市販のパテで補修してください。

●引渡し前には施工管理者が必ず安全点検及び不良箇所の補修を行ってください。

●施工後の接着材が完全に硬化するまでには1〜2日程度かかります。
施工後は慎重に昇降してください。
引渡しまでに時間がかかる場合は必ず化粧面を養生してください。